

## Management Information

## 連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

## 第 2 部 病医院会計制度概論

第 10 章 キャッシュ・フロー計算書の  
様式

病院経営に限らず、ビジネスにとって、日々の取引の基本となるものは現金に代表される資金である。資金を潤沢に準備することで、日々の病院経営に必要な人件費、医薬品等の材料費といった医業サービスに必要な諸経費を負担することができ、同時にそのことは充実した医業サービスの提供をも可能にするであろう。充実した医業サービスの提供は、ひいては安定した医業収益の獲得へとつながる。この資金に関する支出と収入を管理することは、健全な経営のためには不可欠な経営上の課題である。

貸借対照表と損益計算書は、会計のもっとも重要かつ基本的な財務諸表である。しかし、その 2 つの財務諸表からは、ビジネスの基本である資金の流れを読み取ることができない。とりわけ、不安定な経済環境にさらされている今日においては、資金の流れを把握することがますます重要となっており、資金の流れを示したキャッシュ・フロー計算書の重要性がますます高まってきている。その流れは、病院経営にも押し寄せており、きちんと資金を管理し、健全な病院経営をおこなうことが強くもとめられるようになってきている。

## 10-1 利益とキャッシュ・フロー

## 10-1-1 発生主義会計の利益と限界

一般企業においても病院においても、収入として組織に資金が流入する、あるいは支出として資金が流出するということは、もっとも基本的な経済事象である。あらゆる経済取引が現金を中心とした資金を通じておこなわれているために、日々の取引を円滑かつ遅滞なく進めるためには、経営のための健全な資金管理というものが最重要課題であるといえよう。

適正な利益計算をおこなう会計原則においては、貸借対照表と損益計算書という 2 つの重要な財務諸表が作成される。この会計原則において、その基礎を支える根本原則が発生主義という考え方であった。発生主義では、費用が合理的に発生していると判断される場合には、当期の損益計算に費用として計上するものである。

&lt;続く&gt;

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

(医師の)働き方改革  
厚生労働省通知

2024 年 4 月から適用される「医師の働き方改革」ですが、厚生労働省のホームページでも特設サイトを作り啓蒙しています。

<https://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/saiyou/tokusetsu/special/ishi/>

適用まであと 1 年半ありますが、実際にはその取り組みは遅々として進んでいないのが現状ではないでしょうか。そこで、厚生労働省から具体的な取り組み内容（「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」）についての通知がありました。この内容は通知の表題にもあるようにタスクシフト・タスクシェアとなっています。タスク・シフト/シェアは、業務の移管ということが含まれますが、移管は「する側」と「される側」があります。業務が低減するわけではないので、必要な人員を確保するなど「余力の確保」に取り組み必要があると、通知にも記載されています。

## □「余力の確保」通知内容

「タスク・シフト/シェアを受ける側の医療関係職種  
の余力の確保も重要である。具体的には、ICT 機器の導入等による業務全体の縮減を行うほか、医師からのタスク・シフト/シェアだけでなく、看護師その他の医療関係職種から別の職種へのタスク・シフト/シェア（現行の担当職種の見直し）にもあわせて取り組むことなど、一連の業務の効率化を図るとともに、タスク・シフト/シェアを受ける側についても必要な人員を確保することなどにより、特定の職種に負担が集中することのないよう取り組む必要がある」

通知では医師は看護師に業務を移管し、看護師はコメディカルに業務を移管し、コメディカルは事務職に業務を移管しとなっており、さて事務職は誰に業務を移管すればよいのでしょうか。前述部分に ICT の導入とあることから、RPA（ロボテック・プロセス・オートメーション）の活用やデジタルレイバー（仮想労働者）なども考えられます。